

## 残留農薬検査(その3)

当所では、横浜市内に流通する農作物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成22年度より農作物当たりの検査項目数を追加し、検査体制を一層強化しています。

今回は、平成23年10月から12月末の期間に食品専門監視班及び各区福祉保健センターより搬入された農作物等の検査結果を報告します。

### 1 市内産農作物

10月に搬入されたキャベツ、玄米、だいこん【根】及びだいこん【葉】(各1検体)、11月に搬入されたきゅうり、さつまいも、にんじん、ほうれん草(各1検体)、玄米、キャベツ(各2検体)、だいこん【葉】(3検体)及びだいこん【根】(4検体)、12月に搬入された小松菜、ほうれん草、ブロッコリー及びにんじん(各3検体)の計31検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、キャベツ1検体、きゅうり1検体、小松菜2検体、だいこん【葉】2検体、だいこん【根】1検体及びほうれん草1検体から農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

### 2 輸入農作物(冷凍食品を含む)

11月に搬入されたアボカド、冷凍いんげん、グレープフルーツ、冷凍そらまめ(各1検体)、冷凍さといも及びバナナ(各2検体)、12月に搬入されたいんげん、オレンジ、かぼちゃ、ホワイトアスパラガス(各1検体)及びグレープフルーツ(2検体)の計14検体について残留農薬検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、アボカド1検体、いんげん2検体、かぼちゃ1検体、バナナ1検体及びホワイトアスパラガス1検体から農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

表1 残留農薬検査結果

(H23年10月～H23年12月末)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>市内産農作物</b>						
キャベツ	横浜市	3	1	フェンバレレート	0.29	3.0
				プロシミドン	0.03	2
				ルフエヌロン	0.02	0.7
きゅうり	横浜市	1	1	ディルドリン	0.02	0.02
玄米	横浜市	3	0			
小松菜	横浜市	3	1	テフルトリン	0.01	0.5
				1	イミダクロプリド	0.01
				クロルフェナピル	0.23	5
さつまいも	横浜市	1	0			
だいこん【根】	横浜市	5	1	チアメトキサム	0.04	0.2
だいこん【葉】	横浜市	4	1	クロチアニジン	0.03	5
				チアメトキサム	0.15	3
			1	ルフエヌロン	0.02	3
にんじん	横浜市	4	0			
ブロッコリー	横浜市	3	0			
ほうれん草	横浜市	4	1	イミダクロプリド	0.02	2.5
<b>輸入農作物</b>						
アボカド	メキシコ	1	1	ペルメトリン	0.10	5.0
いんげん	オマーン	1	1	アゾキシストロビン	0.01	3
冷凍いんげん	タイ	1	1	ミクロブタニル	0.02	1.0
オレンジ	オーストラリア	1	0			
かぼちゃ	メキシコ	1	1	エンドスルファン	0.007	0.5

表1 残留農薬検査結果 (続き)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
輸入農作物						
グレープフルーツ	アメリカ	3	0			
冷凍さといも	中国	2	0			
冷凍そらまめ	中国	1	0			
バナナ	コロンビア	1	0			
	フィリピン	1	1	アゾキシストロビン ピフェントリン	0.02	3
					0.02	0.1
ホワイトアスパラガス	ペルー	1	1	クロルピリホス	0.01	5

表2 農薬の検査項目及び検出限界(113項目)

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC(α、β、γ及びδの和)	0.005	シハロトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01
DDT(DDE、DDD及びDDTの和*)	0.005	シフルトリン	0.01	フェンスルホチオン	0.01
EPN	0.01	シペルメトリン	0.01	フェンチオン	0.01
アクリナトリン	0.01	ジメチルピホス	0.01	フェントエート	0.01
アセタミプリド	0.01	ジメトエート	0.01	フェンバレレート	0.01
アゾキシストロビン	0.01	シメトリン	0.01	フェンピロキシメート	0.01
アルドリリン及びディルドリン	0.005	スルプロホス	0.01	フェンプロパトリン	0.01
イソフェンホス	0.01	ダイアジノン	0.01	ブタクロール	0.01
イソプロカルブ	0.01	チアクロプリド	0.01	ブタミホス	0.01
イプロベンホス	0.01	チアメキサム	0.01	ブプロフェジン	0.01
イミダクロプリド	0.01	チオベンカルブ	0.01	フルジオキシニル	0.01
インドキサカルブ	0.01	チフルザミド	0.01	フルシトリネート	0.01
エスプロカルブ	0.01	テトラクロルピホス	0.01	フルトラニル	0.01
エチオン	0.01	テトラコナゾール	0.01	フルバリネート	0.01
エトプロホス	0.005	テトラジホス	0.01	プロシミドン	0.01
エトリムホス	0.01	テブコナゾール	0.01	プロチオホス	0.01
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	テブフェノジド	0.01	プロパホス	0.01
エンドリン	0.005	テブフェンピラド	0.01	プロピザミド	0.01
オキサミル	0.01	テフルトリン	0.01	プロメカルブ	0.01
カズサホス	0.01	テフルベンズロン	0.01	プロモプロピレート	0.01
カフェンストロール	0.01	デルタメトリン及びトラメトリン	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
カルバリル	0.01	テルブホス	0.005	ヘキサフルムロン	0.01
クレソキシムメチル	0.01	トリアジメノール	0.01	ヘプタクロ(エホキンドを含む)	0.005
クロチアニジン	0.01	トリアジメホス	0.01	ペルメトリン	0.01
クロマフェノジド	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロルピリホス	0.01	パラチオン	0.01	ホサロン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオンメチル	0.01	ボスカリド	0.01
クロルフェナピル	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	マラチオン	0.01
クロルフェンゾン	0.01	ピフェントリン	0.01	ミクロブタニル	0.01
クロルフェンピホス	0.01	ピペロホス	0.01	メチダチオン	0.01
クロルプロファム	0.01	ピラクロストロビン	0.01	メキシフェノジド	0.01
クロロクスロン	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メトラクロール	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリプチカルブ	0.01	メトリブジン	0.01
シアノホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	メビンホス	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	リニユロン	0.01
ジクロフェンチオン	0.01	ピリミホスメチル	0.01	リンデン(γ-BHC)	0.002
ジクロラン	0.01	フェナリモル	0.01	ルフェヌロン	0.01
ジコホール	0.01	フェントロチオン	0.01		

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

【 検査研究課 微量汚染物担当 】